



平成20年 3月28日

各 位

会社名 南海電気鉄道株式会社
代表者名 取締役社長 巨 信 二
(コード番号 9044 東証・大証・名証第一部)
問合せ先 執行役員IR広報部長 津崎 幸雄
(TEL. 06 6644 7125)

新3か年経営計画「堅進126計画」について

南海グループでは、新3か年経営計画「堅進126計画」(平成20年度～22年度)を策定いたしましたので、その概要についてお知らせします。

1. 前3か年経営計画「進化123計画」について

前3か年経営計画「進化123計画」(平成17年度～19年度)は、同期間を「攻勢への転換期」と位置づけ、なんばパークスの全館グランドオープンをはじめ各事業の収益力の強化を進めました。一方、並行して取り組んだ不採算事業の整理についても概ね完了しました。また、時価会計への対応や有利子負債の削減など、財務上の問題にも取り組み、着実な前進を見ることができました。

その結果、平成19年度決算では、連結経常利益・130億円、連結有利子負債残高・5,300億円以下という目標を、ともに超過達成できる見込みです。

2. 「堅進126計画」の概要

～企業としての社会的責任を果たすとともに、事業の堅実な成長を成し遂げる～

新3か年経営計画は、企業の社会的責任を果たすとともに、当社沿線エリアにヒト・モノが集まる好機を確実にとらえ、沿線価値の向上及び事業基盤の拡充を着実に進めることが不可欠です。そこで、この3年間を「堅実で着実な成長・進化を果たし、創業126周年を迎えるための3か年」と位置づけ、「堅進126計画」と命名し、「攻勢」と「守り」の両面に強弱をつけた経営を推進します。

「堅進126計画」の5つの基本方針

- (1) 「環境保全」のための取組み強化
- (2) 提供するサービスの品質向上
- (3) なんばエリアのさらなる価値向上
- (4) 有望事業の成長加速
- (5) 沿線活性化の推進

各基本方針の詳細については、別紙をご参照ください。

3. 数値目標

計画の最終年度にあたる平成22年度の数値目標は以下のとおりです。

- | | |
|--------------------------|---------|
| (1) 連結経常利益 | 170億円以上 |
| (2) 連結有利子負債残高 / EBITDA倍率 | 10倍未満 |

E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費

以 上

新3か年経営計画「堅進126計画」について

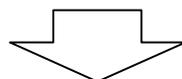
(平成20年度～22年度)

平成20年3月28日

南海電気鉄道株式会社

< 「堅進126計画」の考え方 >

「企業としての社会的責任を果たすとともに、事業の堅実な成長を成し遂げる。」



～ 「攻め」と「守り」両面から成る、5つの基本方針～

「環境保全」のための取組み強化

- ・ 環境に優しい公共交通サービスのご利用を促進
- ・ すべての事業活動において、「環境負荷の軽減」を重視

提供するサービスの品質向上

- ・ 「安全」、「安心」への信頼の強化
- ・ サービスマインド、スキルの向上

なんばエリアのさらなる価値向上

- ・ 自社物件の競争力強化
- ・ まちづくりのコーディネート

有望事業の成長加速

- ・ 不動産賃貸関連ビジネス
- ・ 指定管理者制度関連ビジネス

沿線活性化の推進

- ・ エリア別戦略の実施

「環境保全」のための取組み強化

< 基本方針 >

1. 環境に優しい公共交通サービスのご利用を促進する。
2. すべての事業活動において、「環境負荷の軽減」を重視する。

< 平成22年度までの削減目標を設定 >

「今後3年間で事業活動によるCO²排出量を3%削減」

< 主な取組み >

1. 自社所有林(愛称「なんかいの森」)を育成 (継続事業)
・総面積:約500ha ・場所:和歌山県護国寺山付近
2. 沿線地域での緑化NPO、アジアでの植林NGO等を支援
ミナピタカードポイントを活用した会員様・当社共同参加型
プロアマチャリティゴルフの開催(第1回:平成20年上期、大阪ゴルフクラブ)
3. 省エネ型車両の導入
・省エネ型鉄道車両 42両 ・低燃費バス 240両
4. 太陽光発電の試験利用
・泉佐野駅(平成20年)、以降順次設置

提供するサービスの品質向上

< 基本方針 >

1. 当社グループの全事業のベースとなっている「安全・安心」を第一として、商品・サービスの提供に取り組む。
2. お客さまに高品質なサービスを提供できるよう、サービスマインド、サービススキルの向上を進める。

< 主な取組み >

1. 交通部門を中心とした安全教育の徹底
2. 鉄道安全性向上投資の実施（新型ATS、運転記録装置等を順次設置）
3. 鉄道における安全・安心パトロールの拡大
4. 案内サイン及び放送等の多言語化の推進
5. 第三者機関によるサービスレベル評価の実施（駅、商業施設等）

なんばエリアのさらなる価値向上

< 基本方針 >

1. 街の独自性、「大阪らしさ」を活かしながら、多彩な都市機能が集積する街づくりを推進
 - ・「なにわ文化発信機能」
 - ・関空直結の「ゲートウェイ機能」等
2. 南海なんば駅を核に、周辺エリアとの回遊性向上及び賑わい創出
 - ・南北方向の回遊性強化(近鉄難波駅～南海なんば駅・なんばパークス)等

< 主な取組み >

1. 自社物件のブラッシュアップによる競争力の強化

ホテル南海跡地 サービスアパートメント計画 (次ページ参照)

なんばCITY再生リニューアル計画 (平成21年から段階実施、22年春完成予定)
開業30周年を迎え、高感度で鮮度のあるブランドを導入

南海会館ビル建て替え (時期未定)

行政との協議を経て、計画策定に着手、なんばの新たなフラッグシップに

2. なんばの街づくりを積極的にコーディネート

周辺地権者、地域団体、行政との連携強化

ホテル南海跡地 サービスアパートメント計画について

1. サービスアパートメントとは

- ・ホテルのようなコンシェルジュ、ハウスキーピングサービスを受けられる、キッチン、家具付きの賃貸住居

2. 事業目的

- ・なんばエリアにおけるビジネスサポート機能及び宿泊機能の強化

3. 主な顧客層

- ・長期滞在型の外国人及びビジネスマン

4. 施設概要

- ・ホテル南海なんば跡地(面積1,232 m^2)に建設
- ・地上13階、延床面積7,200 m^2 、室数120室(予定)

5. 開業予定 平成22年秋

完成予想イメージ



有望事業の成長加速

< 基本方針 > 非鉄道事業分野での収益基盤の着実な拡充を進める。

< 主な取り組み >

1. 不動産賃貸関連ビジネスを強化（首都圏、大阪市、堺市他。M & Aの検討も）
 - ・自社開発による賃貸マンション、賃貸ビルの拡充
 - ・プロパティマネジメント&ビルメンテナンスビジネスの拡充
 - ・リフォーム事業の拡充
2. 公共サービスの民間開放関連ビジネスを強化(指定管理者制度を含む)
 - ・公営交通の受託
堺市内LRT計画 等
 - ・公営施設の運営受託、物件の購入・再生
3. その他
 - ・葬祭ビジネスの拡大(7店舗体制の確立)
 - ・新規事業への進出



沿線活性化の推進

< 基本方針 >

当社沿線を5つのエリアに区分し、各エリアの特性・情勢に応じてきめ細やかに施策を実行する。

< 主な取組み >

エリア名	対象区域	主要施策（検討中を含む）
大阪市内エリア	大阪市南部	・なんばエリアの価値向上 ・阪堺線沿線での観光振興
りんくう・湾岸エリア	堺市以南の南海線沿線	・シャープ&関空関連ビジネスの展開 ・みさき公園、大阪ゴルフの整備 ・和大新駅（平成23年度末開業予定） ・和歌山市駅活性化計画
高野線郊外エリア	堺市以南の高野線沿線 及び泉北ニュータウン	・ニュータウン関連ビジネス ・林間田園都市への企業、学校誘致活動
高野山エリア	高野山及び周辺地域	・「こうや花鉄道計画」 （橋本駅～高野山駅間の観光路線化）
南紀・徳島エリア	南紀地域、徳島県	・観光関連ビジネスの強化

「堅進126計画」の数値目標

最終年度(平成22年度)数値目標

「有利子負債リスクを見極めながら、堅実に利益を計上する。」

	平成22年度 目 標
連 結 経 常 利 益	170億円 以上
連結有利子負債残高 / EBITDA倍率	10.0倍 未満

E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費